学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

１．対象　知的障害 中学部１年生 ３人

・平仮名や片仮名を読んだり、漢字で書かれた身近な友達の名前を読んだりすることができる。

・なぞり書きで簡単な文字が書ける生徒が１人、直線や曲線のなぞり書きができる生徒が２人である。

２．題材名「自分の名前を書こう。」（全20時間）

３．題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・正しい書写の姿勢や正しい筆記用具の持ち方を理解することができる。（小②） ・正しい筆順を理解して自分の名前を平仮名で書くことができる。（小②） ・ますの中に収まるように、文字の大きさに注意して書くことができる。（小③）
思考力，判断力，表現力等	・自分の名前を文字で表すことができることを知り、なぞったり、書いたりすることができる。（小②） ・ますの中に収まるように、文字の大きさに注意して書くことができる。（小②）
学びに向かう力，人間性等	・手本をよく見て書くことができる。 ・ますからはみ出さないようになぞり書きができる。（小②） ・自分で書いた文字を確認して、書き直すことができる。

４．本時の目標

・自分の名前を正しい書き順で書くことができる。

・交差する文字を正しい書き順で視写することができる。

・自分の名前を正しい書き順で視写することができる。

５．授業展開【題材】

解決したい課題や問い
「〇〇先生に手紙が届くように、みんなが読める自分の名前を書きたい」 ・転任した先生の顔写真を見せてイメージしやすくする。 ・手紙のイラストを見せて、手紙を書くことを伝える。 ・手紙が誰から届いたのか分かるようにするために必要なことを問い掛ける。

考えるための材料
①正しい鉛筆の持ち方のイラスト
②運筆の練習プリント（始点から矢印を出して終点に向けて書けるようにする。）
③なぞり書きプリント（一画ごとに色を変えて文字の構成や、書き順を覚えられるようにする。）
④視写プリント（1cmメートル四方の４分割の点線あり）
⑤2cm四方の方眼紙（４分割の点線あり）
⑥視写用の手本（1cmメートル四方の４分割の点線あり）
想定される活動
①　正しい持ち方に気付き、自分で考えて直す。 ②　始点と終点が分かる。 ③　文字の構成が分かり、交差する線を書いたり、正しい書き順で書いたりする。 ④　手本を見ながらバランス良く書く。 ⑤　文字の大きさに気を付けながら書く。 ⑥　全体のバランスを考えて書く。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

対話と思考は、教材と向き合う姿で評価する場面が主となる。
・イラストと比較して、正しい鉛筆の持ち方になるように直している。
・始点に鉛筆を置いた後に終点を見ながら線の上をなぞっている。
・文字を並べ替えて自分の名前を完成させようとしている。
・「止め」「はね」「はらい」に注意して文字を視写したり、書き直したりしている。
・ますの中に収まるように書こうとしている。
【手立て】
・基本的には一人ずつ前を向いて個別に学習していく。必要に応じて教師と確認し合う時間を設ける。
・書き終わったら教師に報告し、字形を確認する時間を設ける。教師は、読みやすい字になるようにポイントを赤ペンで伝える。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

・正しい筆順で自分の名前を書いている。
・ますの中に収まるように名前を書いている。
・自分から背筋を伸ばし、左手で紙を押さえて書いている。
・自分の名前の文字を読みながら書いている。
・「止め」「はね」「はらい」に気を付けて書いている。
・自分の顔写真を見て、名前を書いている。
【手立て】
課題が終わったら、教師に報告し、字形の確認をする。確認する際に、本人が考えられるように「この文字はどうかな。」という言葉掛けをする。生徒が、「この文字が上手に書けるようになった。」、「もっと大きく書こう。」など、成果や課題を見い出せるようにする。
また、できたことをプリントに明記して、積み重ね、生徒自身が上手に名前が書けたことが分かるようにしていく。